



## 2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）



2021年2月2日  
上場取引所 東

上場会社名 株式会社ニチレイ  
 コード番号 2871 URL <https://www.nichirei.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大櫛 顕也  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 大淵 正 TEL 03-3248-2165  
 四半期報告書提出予定日 2021年2月5日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第3四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	435,716	△2.7	27,431	6.7	27,949	5.8	16,952	△0.5
2020年3月期第3四半期	447,583	0.4	25,708	8.3	26,406	8.8	17,039	4.4

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 16,625百万円(8.0%) 2020年3月期第3四半期 15,396百万円(3.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	127.23	—
2020年3月期第3四半期	127.87	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第3四半期	410,163	202,356	47.5	1,462.58
2020年3月期	390,004	191,388	47.3	1,384.90

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 194,907百万円 2020年3月期 184,504百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	21.00	—	21.00	42.00
2021年3月期	—	22.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	28.00	50.00

(注) 1 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2 2021年3月期(予想) 期末配当金の内訳 普通配当22円00銭 創立75周年記念配当6円00銭

### 3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	571,500	△2.3	32,500	4.7	32,700	2.9	20,000	2.0	150.12

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料11ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご参照ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期3Q	140,003,877株	2020年3月期	139,965,587株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	6,741,369株	2020年3月期	6,739,790株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期3Q	133,248,433株	2020年3月期3Q	133,258,924株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提条件その他の関連する事項や注意事項等については、添付資料6ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 注意事項」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	7
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	9
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	9
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	11
(継続企業の前提に関する注記) .....	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	11
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動) .....	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	11
(セグメント情報等) .....	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

① 業績の概況

当第3四半期累計期間における世界経済は、新型コロナウイルス感染拡大により急速に悪化したことから、各国政府は大規模な財政出動により景気の下支えを図ってきましたが、先行きは不透明な状況が続きました。また、わが国経済においても、輸出や消費の減少、特定業種の企業業績や雇用環境の悪化など厳しい状況となりました。緊急事態宣言の解除後に一時景気を持ち直しの動きがみられたものの、感染が再拡大するなか経済活動への懸念が広がり、景気の先行きは依然として厳しい状況で推移しました。

食品関連業界では、外出自粛により外食需要が落ち込む一方、巣ごもり消費拡大に伴い内食・中食需要が高まるなど、市場に大きな変化が生じ、新しい生活様式に沿った業態転換を模索する動きも見られました。また、労働力不足に起因するコスト上昇に対応すべく、先端技術を活用した自動化や省力化への動きが加速しました。

当社グループは、生活を支える社会的基盤として、従業員を含むサプライチェーン上の安全に十分配慮したうえで企業活動を行い、経営環境の変化を的確に捉えながら「持続的な利益成長」と「豊かな食生活と健康を支える新たな価値の創造」の実現に向けた施策に取り組みました。

この結果、グループ全体の売上高は、外食向け販売の減少などにより、4,357億16百万円（前期比2.7%の減収）となりました。利益面では、経費抑制や業務効率化などにより低温物流事業が伸長したことで、営業利益は274億31百万円（前期比6.7%の増益）となり、経常利益は279億49百万円（前期比5.8%の増益）となりました。

特別利益は94百万円となる一方、特別損失は、その他の事業のバイオサイエンス事業においてのれんの減損損失を計上したことなどにより総額は19億28百万円となりました。

以上により、親会社株主に帰属する四半期純利益は169億52百万円（前期比0.5%の減益）となりました。

《連結経営成績》

(単位：百万円)

	当第3四半期 累計期間	前期比	増減率(%)
売上高	435,716	△11,866	△2.7
営業利益	27,431	1,722	6.7
経常利益	27,949	1,543	5.8
親会社株主に帰属 する四半期純利益	16,952	△86	△0.5

② セグメント別の概況

(単位：百万円)

(セグメント)	売上高			営業利益		
	当第3四半期 累計期間	前期比	増減率(%)	当第3四半期 累計期間	前期比	増減率(%)
加工食品	170,754	△8,522	△4.8	13,381	△549	△3.9
水産	50,281	△3,500	△6.5	666	106	18.9
畜産	64,100	△3,210	△4.8	1,041	325	45.3
低温物流	159,866	4,388	2.8	11,322	1,746	18.2
不動産	3,554	△189	△5.1	1,589	△56	△3.4
その他	3,684	△450	△10.9	△282	9	—
調整額	△16,525	△381	—	△288	140	—
合計	435,716	△11,866	△2.7	27,431	1,722	6.7

（イ）加工食品事業

中食需要は引き続き好調に推移し、家庭用はチキン加工品や米飯類などの主力カテゴリーを中心に販売が拡大しました。一方、外食需要の回復の遅れから業務用は苦戦し、加工食品事業全体では減収・減益となりました。

（単位：百万円）

	当第3四半期 累計期間	前期比	増減率(%)
売上高 計	170,754	△8,522	△4.8
家庭用調理品	52,283	4,519	9.5
業務用調理品	66,111	△10,781	△14.0
農産加工品	15,489	173	1.1
海外	25,975	△352	△1.3
その他	10,894	△2,082	△16.0
営業利益	13,381	△549	△3.9

（注）海外は2020年1月から2020年9月までの累計期間

家庭用調理品

家庭内での喫食機会が増加するなか、生産能力増強や積極的な販売促進活動などにより、カテゴリー内で売上No.1の「本格炒め炒飯」や「特から」を中心に引き続き販売数量を伸ばしました。「極上ヒレかつ」や「旨辛チキン」などの新商品も寄与しました。

業務用調理品

巣ごもり消費拡大により量販店惣菜向けなどへの販売に努めたものの、外食向けを中心に販売が減少しました。

農産加工品

家庭内での調理機会の増加に伴い、ブロッコリーやナスなど「そのまま使える」シリーズなどの家庭用商品が好調に推移し、業務用商品の落ち込みをカバーしました。

海外

米国子会社のInnovAsian Cuisine Enterprises社において、需要が増加する家庭用主力商品の調達先を拡大したことなどにより、取扱いが伸長しました。一方、海外全体では円高による為替換算影響を受けました。

（ロ）水産事業

主力の「えび」を中心に外食・中食向けの販売が減少しましたが、需要が旺盛な内食向けの「たこ」や「魚卵」の販売に注力し、採算が改善したことにより増益となりました。

（ハ）畜産事業

外食・中食向けの輸入品の取扱いが減少しましたが、生協・量販店向けの国産品や加工品の販売拡大に注力したことに加え、豚肉の採算が改善したことなどにより増益となりました。

（二）低温物流事業

物流ネットワーク事業におけるTC（通過型センター）事業が好調に推移したことにより増収となりました。営業利益は、増収効果や経費抑制により増益となりました。

（単位：百万円）

	売上高			営業利益		
	当第3四半期 累計期間	前期比	増減率 (%)	当第3四半期 累計期間	前期比	増減率 (%)
国内小計	131,661	6,519	5.2	10,685	1,614	17.8
物流ネットワーク	78,227	2,598	3.4	4,345	989	29.5
地域保管	53,433	3,920	7.9	6,340	624	10.9
海外	26,861	△1,332	△4.7	1,046	137	15.1
その他・共通	1,343	△798	△37.3	△409	△5	—
合計	159,866	4,388	2.8	11,322	1,746	18.2

（注）1 海外は2020年1月から2020年9月までの累計期間  
 2 地域保管事業に物流ネットワーク事業の業務を一部統合

国内

輸入貨物をはじめ入出庫物量の全般的な減少傾向が継続したものの、巣ごもり需要により量販店向けTC事業や家庭用冷凍食品などの保管貨物の取扱いが好調に推移しました。また、業務革新のモデルセンターと位置付ける、名古屋みなと物流センター（2020年4月新設）が安定稼働しました。利益面では増収効果に加え、経費抑制や業務効率化に努めたことなどにより大きく伸長しました。

海外

欧州地域において量販店向け物量は増加しましたが、飲食店向け配送業務などの取扱いは低迷しました。利益面では量販店向け業務の作業効率向上や車両調達コストの減少などにより伸長しました。

(2) 財政状態に関する説明  
 《資産・負債及び純資産の状況》

(単位：百万円)

	前連結会計年度末	当第3四半期 連結会計期間末	比較増減
[資産の部]			
流動資産	170,308	181,663	11,355
固定資産	219,696	228,500	8,804
資産合計	390,004	410,163	20,159
[負債・純資産の部]			
流動負債	108,419	118,754	10,335
固定負債	90,196	89,052	△1,144
負債合計	198,615	207,807	9,191
うち、有利子負債 (リース債務を除く)	96,351 (80,669)	105,360 (89,618)	9,008 (8,948)
純資産合計 (うち自己資本)	191,388 (184,504)	202,356 (194,907)	10,968 (10,403)
D/Eレシオ (倍) (リース債務を除く)	0.5 (0.4)	0.5 (0.4)	0.0 (0.0)

(注) D/Eレシオの算出方法：有利子負債÷純資産

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末より201億円増加し、4,101億円となりました。このうち流動資産は、売上債権の増加などにより113億円増加し、1,816億円となりました。また、固定資産は、主力事業の収益基盤拡大に向けた設備投資などによる有形固定資産の増加に加え、投資有価証券の時価評価額が増加したことなどにより88億円増加し、2,285億円となりました。

負債合計は、前連結会計年度末より91億円増加し、2,078億円となりました。このうち有利子負債は、季節要因による資金需要に充てるため90億円増加し、1,053億円となりました。

純資産合計は、前連結会計年度末より109億円増加し、2,023億円となりました。このうち自己資本は、親会社株主に帰属する四半期純利益169億円の計上と配当金57億円の支払いの結果、利益剰余金が112億円増加したことなどにより104億円増加し、1,949億円となりました。

設備投資等の概要は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第3四半期 累計期間	当第3四半期 累計期間	比較増減
設備投資等 (うちリース資産除く)	14,674 (12,963)	22,878 (19,890)	8,204 (6,927)
減価償却費 (うちリース資産除く)	13,617 (10,872)	14,428 (11,596)	811 (723)

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループ全体の予想

当第3四半期までの実績を踏まえ、2020年11月4日付の「2021年3月期 第2四半期決算短信」で公表しました2021年3月期の連結業績予想を下記のとおり修正しております。

(単位：百万円)

		通期			
		予想	対前期比較		前回予想比
			増減額	増減率(%)	
売上高	加工食品	226,000	△8,781	△3.7	—
	水産	60,000	△5,772	△8.8	—
	畜産	85,000	△3,327	△3.8	△1,000
	低温物流	212,000	5,503	2.7	2,000
	不動産	4,700	△265	△5.3	—
	その他	5,000	△681	△12.0	△600
	調整額	△21,200	△34	—	△400
	合計	571,500	△13,358	△2.3	—
営業利益	加工食品	16,800	74	0.4	—
	水産	500	56	12.8	300
	畜産	1,300	394	43.5	—
	低温物流	12,900	1,075	9.1	400
	不動産	2,000	17	0.9	—
	その他	△300	△19	—	△300
	調整額	△700	△135	—	100
	合計	32,500	1,464	4.7	500
経常利益		32,700	922	2.9	700
親会社株主に帰属する当期純利益		20,000	390	2.0	—
1株当たり当期純利益(円)		150.12			

(注) 年間の為替レートは、1米ドル107円、1ユーロ122円、1パーツ3.4円を想定しております。

注意事項

この第3四半期決算短信に記載されているニチレイの現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、様々な重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみで全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただきますようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えることが予想されるリスクや不確実な要素には、以下のものが含まれます。

1. ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢及び業界環境
2. 米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
3. 商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
4. 新商品・新サービス開発の実現性
5. 成長戦略とローコスト構造の実現性
6. ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
7. 偶発事象の結果 など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。



2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	25,933	26,562
受取手形及び売掛金	82,269	97,758
商品及び製品	39,201	37,921
仕掛品	889	1,410
原材料及び貯蔵品	7,843	9,311
その他	14,303	8,836
貸倒引当金	△131	△137
流動資産合計	170,308	181,663
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	77,682	76,938
機械装置及び運搬具（純額）	27,756	29,785
土地	36,007	38,652
リース資産（純額）	14,598	14,702
建設仮勘定	4,534	8,280
その他（純額）	2,653	2,538
有形固定資産合計	163,233	170,897
無形固定資産		
のれん	2,754	1,536
その他	6,397	6,493
無形固定資産合計	9,152	8,029
投資その他の資産		
投資有価証券	35,780	38,296
退職給付に係る資産	57	57
繰延税金資産	1,912	1,915
その他	9,828	9,549
貸倒引当金	△268	△245
投資その他の資産合計	47,310	49,573
固定資産合計	219,696	228,500
資産合計	390,004	410,163

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	25,521	27,989
電子記録債務	2,939	3,159
短期借入金	4,292	11,665
コマーシャル・ペーパー	2,000	4,000
1年内償還予定の社債	10,000	10,000
1年内返済予定の長期借入金	956	1,222
リース債務	3,605	3,581
未払費用	34,893	31,767
未払法人税等	5,299	3,741
役員賞与引当金	228	162
その他	18,683	21,465
流動負債合計	108,419	118,754
固定負債		
社債	30,000	30,000
長期借入金	33,420	32,730
リース債務	12,076	12,160
繰延税金負債	2,830	3,195
役員退職慰労引当金	175	158
退職給付に係る負債	2,014	1,983
資産除去債務	3,935	4,002
長期預り保証金	3,044	2,143
その他	2,698	2,678
固定負債合計	90,196	89,052
負債合計	198,615	207,807
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,359	30,418
資本剰余金	5,750	5,795
利益剰余金	156,953	168,176
自己株式	△17,642	△17,646
株主資本合計	175,421	186,744
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,016	10,799
繰延ヘッジ損益	802	△294
為替換算調整勘定	△736	△2,342
その他の包括利益累計額合計	9,082	8,163
非支配株主持分	6,884	7,449
純資産合計	191,388	202,356
負債純資産合計	390,004	410,163

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	447,583	435,716
売上原価	371,478	359,862
売上総利益	76,104	75,854
販売費及び一般管理費		
運送費及び保管費	13,678	13,658
販売促進費	739	766
広告宣伝費	3,302	2,224
役員報酬及び従業員給料・賞与・手当	13,619	14,019
退職給付費用	700	700
法定福利及び厚生費	2,551	2,868
旅費交通費及び通信費	1,798	769
賃借料	1,499	1,535
業務委託費	2,865	2,945
研究開発費	1,839	1,792
その他	7,800	7,140
販売費及び一般管理費合計	50,395	48,423
営業利益	25,708	27,431
営業外収益		
受取利息	105	63
受取配当金	661	654
持分法による投資利益	352	387
その他	464	353
営業外収益合計	1,584	1,458
営業外費用		
支払利息	599	546
その他	286	393
営業外費用合計	886	939
経常利益	26,406	27,949
特別利益		
固定資産売却益	73	34
投資有価証券売却益	423	49
その他	—	10
特別利益合計	497	94
特別損失		
固定資産売却損	16	6
固定資産除却損	975	750
減損損失	67	1,139
その他	146	32
特別損失合計	1,205	1,928
税金等調整前四半期純利益	25,699	26,116
法人税等	7,851	8,045
四半期純利益	17,847	18,070
非支配株主に帰属する四半期純利益	807	1,117
親会社株主に帰属する四半期純利益	17,039	16,952

（四半期連結包括利益計算書）  
（第3四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2020年4月1日 至 2020年12月31日）
四半期純利益	17,847	18,070
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,439	1,779
繰延ヘッジ損益	188	△1,114
為替換算調整勘定	△1,284	△1,808
持分法適用会社に対する持分相当額	84	△301
その他の包括利益合計	△2,450	△1,444
四半期包括利益	15,396	16,625
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	14,465	16,033
非支配株主に係る四半期包括利益	931	592

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	加工食品	水産	畜産	低温物流	不動産	計				
売上高										
外部顧客への売上高	178,963	53,619	65,690	143,263	2,488	444,025	3,557	447,583	-	447,583
セグメント間の内部 売上高又は振替高	313	162	1,619	12,214	1,256	15,566	577	16,143	△16,143	-
計	179,276	53,782	67,310	155,477	3,744	459,591	4,135	463,727	△16,143	447,583
セグメント利益 又は損失(△)	13,930	560	716	9,576	1,645	26,430	△292	26,137	△428	25,708

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、バイオサイエンス事業のほか、人事給与関連業務サービス、緑化管理・清掃関連サービスの事業を含んでおります。  
 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去等△39,460百万円及び各報告セグメントに配分していない持株会社(連結財務諸表提出会社)に係る損益39,031百万円であります。  
 3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	加工食品	水産	畜産	低温物流	不動産	計				
売上高										
外部顧客への売上高	170,551	50,179	62,314	147,231	2,346	432,624	3,092	435,716	-	435,716
セグメント間の内部 売上高又は振替高	202	101	1,785	12,634	1,208	15,933	592	16,525	△16,525	-
計	170,754	50,281	64,100	159,866	3,554	448,557	3,684	452,242	△16,525	435,716
セグメント利益 又は損失(△)	13,381	666	1,041	11,322	1,589	28,002	△282	27,719	△288	27,431

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、バイオサイエンス事業のほか、人事給与関連業務サービス、緑化管理・清掃関連サービスの事業を含んでおります。  
 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去等△7,780百万円及び各報告セグメントに配分していない持株会社(連結財務諸表提出会社)に係る損益7,492百万円であります。  
 3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「その他」のバイオサイエンス事業にかかるのれんについて、事業計画の策定に際し将来の不確実性を検討した結果、帳簿価額の全額1,026百万円を減損損失として特別損失に計上しております。

（のれんの金額の重要な変動）

上記（固定資産に係る重要な減損損失）の記載の通り、「その他」のバイオサイエンス事業においてのれんを減損しております。

（重要な負ののれんの発生益）

該当事項はありません。

以上